

いわて 復興 だより

がんばろう!岩手 つなごろう!岩手
第185号
令和4年度第2号



三陸復興

平成23年3月11日に東日本大震災津波が発生しました。発災以来、国内外から多くの温かい励ましや御支援をいただいております。心から感謝申し上げ、この「つながり」を大切にし、復興のステージを更に前に進めていく岩手県の今を紹介します。

開催

令和4年度第1回いわて復興未来塾開催

釜石市
KAMAISHI

令和4年7月2日(土)と3日(日)の2日間、「進化する伝承・発信と更なる交流に向けて」をテーマに、令和4年度「第1回いわて復興未来塾」(併催：令和4年度第1回いわて三陸復興フォーラム・「いわての復興を自治の進化に」第9回シンポジウム)が、釜石市で開催されました。

初日の2日(土)は、釜石情報交流センター(チームスマイル・釜石PIT)を会場に、基調講演、事例報告及び応援職員OB座談会が行われ、約70名が参加しました。

基調講演では、株式会社IBC岩手放送メディア戦略部シニアマネージャー・相原優一さんが、新聞社と共同して制作した過去の災害を刻んだ石碑や遺構のVR(仮想現実)映像や、震災前の街並みに住民の思い出を盛り込んだデジタル地図を紹介しながら、震災を知らない世代に教訓を分かりやすく伝えることができるデジタルの可能性についてお話しました。



相原さんの発表の様子

続いて、事例報告では、遠野市消防本部消防長・千田一志さんが、東日本大震災津波後に同市を拠点に沿岸各地へ展開された被災地支援活動について、震災前から構想を策定し、自治体間連携や訓練を重ねるなど平時からの備えが生かされたことを発表しました。



千田さんの発表の様子

その後、株式会社高田松原代表取締役社長の熊谷正文さんを聞き手として、東京都職員の鍵本拓哉さん、大阪府職員の八尾信彦さん、長野県職員の坂田健剛さん、名古屋市職員で公益財団法人名古屋観光コンベンションビューローの千葉齊昭さんによる応援職員OB座談会を行いました。応援職員の皆さんが岩手に派遣された期間

に経験した復興の取組や苦労したこと、岩手での思い出について、個性豊かに意見が交わされました。



応援職員OB座談会の様子

知事からは、「進化する伝承・発信とは、技術的にも進化し、テーマ的にも進化させることで、そこに関わる一人ひとりの関わりもどんどん進化発展させていくことができる」とコメントがありました。



総括コメントを述べる連増知事

2日目の3日(日)は、釜石市で復興現場見学会が行われ、約30人が参加しました。参加者は、いのちをつなぐ未来館の川崎杏樹さんの案内により、東日本大震災津波の発災当日、鶴住居小学校・釜石東中学校の児童生徒が避難した1.6kmのルートを実際に歩いて追体験しました。また、同館の展示や鶴住居川水門、片岸海岸防潮堤を視察し、将来の災害に対して日頃から備えることの大切さを学びました。



津波から避難したルートを追体験する参加者

事例報告会の様子は、動画配信サイトに掲載されていますので、ぜひご覧ください。➡



■問い合わせ 岩手県復興防災部復興推進課
☎019-629-6945

話題

大船渡のトラウトサーモン
今季初出荷大船渡市
OFUNATO

陸上養殖施設でのトラウトサーモンの水揚げの様子

令和4年6月30日(木)、市内の新しい陸上養殖施設で育成した「トラウトサーモン」が、大船渡市魚市場に初めて出荷されました。

秋サケの深刻な不漁が続く中、盛川漁協では、平成29年度からトラウトサーモンの試験養殖に取り組んできたところであり、飼育規模拡大のため、昨年、市内の民有地に水槽4基を新設しました。

今回、陸上養殖施設で2キロ程度に育った約1.1トンの水揚げし、今期は5トン程度の出荷を見込んでいます。

新たな養殖漁業資源として注目されるトラウトサーモンは、刺身やすしネタとして需要があり、同漁協では、今後も規模拡大に向けて研究を続けることとしています。

■問い合わせ 岩手県農林水産部水産振興課
☎019-629-5816

話題

三陸鉄道「ゴルゴ13」
ラッピング列車 運行中三陸鉄道沿線
SANRIKU

三陸鉄道では、令和4年6月から、人気漫画「ゴルゴ13」のラッピング列車を運行しています。ラッピング列車は、ゴルゴ13の主人公・デューク東郷が「ポイ捨てをするな 海ごみは街から出ている」と眼光鋭く呼びかけるデザインで、深刻化する海洋ごみの削減に向けたメッセージを力強く発信しています。

また、宮古駅など4つの駅には、デューク東郷の等身大パネルと共に「俺のうしろにごみを捨てるな!」とのメッセージが書かれたゴミ箱も設置されています。

このラッピング列車は、令和5年3月末まで、三陸鉄道の久慈～盛駅間を不定期で運行していますので、ぜひデューク東郷へ会いに三陸鉄道をご利用ください。

■問い合わせ 三陸鉄道株式会社
☎0193-62-8900

三陸鉄道➔



「ゴルゴ13」ラッピング列車(写真提供:三陸鉄道)

世界へ、未来へ いわてTSUNAMIメモリアル

東日本大震災津波の事実と教訓を伝える施設「東日本大震災津波伝承館」(いわてTSUNAMI(つなみ)メモリアル)を紹介します。

令和4年6月10日(金)、ドイツ連邦共和国のクレメンス・フォン・ゲッツェ駐日特命全権大使が、東日本大震災津波伝承館を訪れました。

前日に県庁で日本とドイツの少子高齢化対策や再生可能エネルギーの推進等について達増知事と意見交換を行った大使は、御夫妻で伝承館の職員の説明に熱心に耳を傾けながら、真剣な表情でガイダンスシアターや被災物等の展示を視察し、館内のメッセージボードに震災津波で犠牲になられた方々に対する追悼の言葉を記載しました。ドイツの支援に対し、藤澤副館長から感謝の気持ちが伝えられました。

その後、大使御夫妻は、戸羽陸前高田市市長の案内により、高田松原津波復興祈念公園内の震災遺構「奇跡の一本松」や「旧気仙中学校」等も視察しました。

東日本大震災津波からの復旧・復興に当たっては、ドイツをはじめ、国内外から多くの支援をいただきました。伝承館では、自然災害に強い社会を一緒に実現することを目指し、今後も、震災津波の事実と教訓を世界中の人々と共有するとともに、支援への感謝と震災津波を乗り越えて進む岩手の復興の姿を発信していきます。

■問い合わせ 東日本大震災津波伝承館
☎0192-47-4455



視察後の記念撮影の様子

達成

宮古市田老地区「学ぶ防災」 利用者数20万人達成

宮古市
MIYAKO

宮古観光文化交流協会では、東日本大震災津波の記憶と後世への教訓を伝えるため、平成24年4月から宮古市田老地区で「学ぶ防災」に取り組んでいます。

令和4年7月7日(木)、「学ぶ防災」の利用者数が20万人に達しました。20万人目は、震災学習旅行で訪れた東京の私立鷗友(おうゆう)学園女子中学高等学校の高校1・2年生の有志40人で、津波遺構「たろう観光ホテル」前で記念のセレモニーが行われました。

訪れた高校生たちは、防潮堤の上で学ぶ防災ガイドから現地の説明を受けた後、たろう観光ホテルの最上階へ上がり、東日本大震災の大津波が襲来する映像を見て、自然災害の恐ろしさと今後の備えを学びました。

同協会では、今後も「学ぶ防災」の取組を通じて、参加者の防災意識の向上のためのプログラムを提供しながら、防災教育の拠点として一層の発展を目指しています。



利用者20万人目の記念品を受け取る高校生(写真提供:宮古市)

■問い合わせ 学ぶ防災ガイド
(たろう潮里ステーション内)
☎0193-77-3305



オープン

ピーカンナッツ 産業振興施設オープン

陸前高田市
RIKUZENTAKATA

オープンしたピーカンナッツ産業振興施設

令和4年7月16日(土)、陸前高田市が中心市街地に整備したピーカンナッツ産業振興施設がオープンしました。ピーカンナッツは、北米原産のクルミ科落葉樹の実で抗酸化作用があり、米国を中心に生食や製菓材料などとして普及していますが、日本国内の消費量はアーモンドの100分の1程度で希少性があり、今後、市場形成や流通基盤構築が期待されています。

同市では、東日本大震災津波で被災した農業の再生、地域活性化を目的として、産学官の連携によりピーカンナッツによる地方創生プロジェクトを推進しています。

オープンした施設では、民間事業者がピーカンナッツを使った商品を加工・販売するほか、イベント用のキッチンスタジオや多目的スペースが設けられており、魅力発信とにぎわい創出に取り組むこととしています。

■問い合わせ 陸前高田市地域振興部商政課
☎0192-54-2111(代表)



さんりくイベント情報

ランニング・ウォーキング+自転車+足湯で陸前高田を巡る「スパトリアスロン」

陸前高田市
RIKUZENTAKATA

老若男女が楽しめる健康増進のためのスポーツ「スパトリアスロン」が、岩手県で初めて陸前高田市で開催されます。同市中心部や高田松原をランニングやウォーキング、自転車で巡るタイムレース(約10km)のほか、震災遺構を歩いて巡りながら防災クイズに挑戦する「防災アスロン」もあり、ゴール後には、参加者が温泉から運んだ足湯につかることができます。

開催日時 8月27日(土)プレイベント、前夜祭

8月28日(日)スパトリアスロン競技大会 8:00(受付開始)~15:00(終了予定)

競技部門

- ①スパトリアスロン(約10kmのタイムレースで、本格派もチャレンジ組も大歓迎です。レースの途中では、高田松原ビーチをウォーキングしながら、ゴミ拾いを行います。)
- ②スパアスロン(約6kmのウォーキングコースで、年齢制限なく誰でも参加できます。友好協定を結んでいる川崎フロンターレに関するクイズを中心に点数を競います。)
- ③陸前高田防災アスロン(約6kmのウォーキングコースで、防災のエキスパートと一緒に東日本大震災津波の被害の大きかった地域を巡りながら、防災に関する基礎知識を学び、改めて災害について認識を深めます。)

参加対象

- ・スパトリアスロンは12歳以上で、個人又は3人1チーム
- ・スパアスロン、防災アスロンは、誰でも参加可能

参加費

- ・スパトリアスロンは1人4,500円(3人チームの場合は11,000円)
- ・スパアスロン、防災アスロンは1人3,500円(※12歳以下は1人2,000円)

参加申込締切

8月20日(土)※予定

問い合わせ

一般社団法人日本スパトリアスロン協会
☎090-6774-6049(井上様)



参加者がレースの途中でゴミ拾いを行う高田松原(写真提供:陸前高田市)

※新型コロナウイルス感染症の影響等により、中止や内容が変更となる場合があります。予め、問い合わせ先にご確認ください。



宮古 うみねこ丸

浄土ヶ浜や三陸ジオパーク・ジオサイトを巡る、宮古市の新しい遊覧船

宮古市では、湾内を周遊しながら浄土ヶ浜を満喫できる新遊覧船「宮古うみねこ丸」が7月18日(月)から運航しています。

新しい遊覧船は、令和3年1月に運航を終了したみやこ浄土ヶ浜遊覧船の後継として、クラウドファンディングやふるさと納税など、多くの方々からの支援によって建造されました。

「宮古うみねこ丸」の定期航路は、出崎ふ頭と浄土ヶ浜栈橋の2箇所に乗り場があり、1周9.5キロの湾内を50分で巡って観光を楽しむだけでなく、出崎ふ頭～浄土ヶ浜間の水上交通としての利用も期待されています。

宮古市では、みんなの笑顔と希望を乗せながら、安全最優先で遊覧船を運航し、宮古の魅力を発信していきます。

- 運賃** 湾内周遊(大人)1,500円、(小人)750円
出崎ふ頭～浄土ヶ浜間(大人)500円、(小人)250円
- 運航本数** 8月末までは1日7便を毎日運航(9月以降は火曜日運休)。また、冬期間は特別ダイヤとする予定)

※詳細については、ホームページをご覧ください➡



宮古市の新遊覧船「宮古うみねこ丸」(写真提供:宮古市)



いわてさんりくびと

連載「いわてさんりくびと」では、被災地・三陸の復興に向け、熱い想いをもち、活躍する方々を紹介しします。第131回は高浜菜奈子さんをご紹介します



～子どもの豊かな感性に
共感できる大人でありたい～

PROFILE 青森県八戸市出身。大学在学中に1年間大学を休学し、カンボジアで活動する日本のNPO法人に勤務。帰国後はNPO法人「地球のしごと大学」職員となり、働きながら学ぶ。平成30年に田野畑村へ移住。令和3年4月、普代村で「つちのこ保育園」を開園。4歳と2歳の子どもの育児にも奮闘中。

子どもたちの主体性を大切に

高浜菜奈子さんは「地球のしごと大学」の講座を受講する中で、子どもたちへ自然体験の機会を提供しながら子育て・保育を行う「森のようちえん」に出会い、その思いに共感します。田野畑村に移住後、様々な縁が繋がり、令和3年に普代村で「つちのこ保育園」を立ち上げました。

現在の園児数は6名で、普代村の他、野田村や田野畑村からも通っています。保育内容は野外での活動を基本とし、1日の予定を子どもたちのタイミングで組み立てるのが特徴です。「自然体験をする保育園というイメージを持たれますが、大切にしているのは、子どもたちが自分で答えを導き出す力、工夫や改善をする力を身に付けることです。カリキュラム通りではなく、子どもたち

の特性に合わせて進めていると、一人一人の本音が見えるのと同時に、親の背中も見えてきます。子どもが育つと同時に大人も磨かれるのを感じます」と高浜さんは言います。

海と山の近さが魅力

普代村の印象について、高浜さんは、「やっぱり海ですね。それに山も近くて本当に良いところだと思います。商店街の方々がお祭りを開催したり、にぎわいをつくらうとしているのも魅力だと感じます」と語ります。

今後の活動について、「アートにも力を入れたいです。目に映る色ではなくて、心に映る色で絵を描いてもかまいません。感性のままに表現できることを尊重していきたいです」と力を込めます。

岩手県の被害状況

令和4年6月30日現在

- 人的被害 死者：5,145人(余震、震災関連死を含む)
行方不明者：1,110人
- 建物被害(住家のみ、全半壊)26,079棟
被害状況等の詳細／義援金・寄附金の募集等

いわて防災情報ポータル

検索

皆様のご支援、ありがとうございます

令和4年6月30日現在

- 義援金受付状況 約188億2,913万円(98,741件)
 - 寄附金受付状況 約203億6,019万円(15,036件)
 - いわての学び希望基金(※)受付状況 約105億1,496万円(26,738件)
- ※被災した子どもたちが勉強やスポーツ等に励めるよう「くらし」「まなび」の支援に使われます。



いわて震災津波アーカイブ～希望～

約24万点の資料を検索・閲覧できます。

いわて震災津波アーカイブ

検索



いわて復興だより 第185号

令和4年8月2日発行 企画・発行／岩手県復興防災部復興推進課 ☎019-629-6945 編集・校正／永代印刷株式会社

次回は令和4年10月3日の発行を予定しています。